（10・25日毎月２回発行　昭和53年６月25日　第三種郵便物認可）

自治体 あいちの仲間

2003.11.10
No.866

発行責任者　梅野敏基　定価　10円
組合員の購読料は組合費のなかに含まれています

発行所　自治労連愛知県本部　名古屋市北区柳原三丁目7番8号
URL　http://www.jaichi.jp　TEL〈052〉916－2251
Eメール　info@jaichi.jp　FAX〈052〉916－2308

2003年秋季年末闘争
官民共同の闘い

すべての労働者に悪影響
賃下げ、首切り許すな

10.24全県労働者決起集会

愛労連や自治労連、愛知国公、愛知公務共闘、愛知春闘共闘委員会は10月24日夜名古屋市中区の若宮大通公園で「10・24賃下げ・首切り許すな、国政転換　全県労働者決起集会」を開催しました。豊橋や江南など県内各地からバスで駆けつける官民の労働組合、1500人が参加しました。この集会は確定闘争の山場を前にして闘う意思統一を行い、総選挙で小泉悪政を転換させようと開催したものです。

集会は勇壮な開幕太鼓で始まり、主催者代表の愛労連・見崎議長は、「マイナス人勧は公務労働者だけの問題ではなく、すべての労働者に悪影響を及ぼしている。青年の雇用も深刻で、高校の校長から労働組合にがんばってほしいという声が寄せられている」とあいさつしました。

連帯あいさつで愛知県消費者団体連絡会の中村さんは「消費者の目線で生活悪化を許さないたたかいを」と語り、決意表明では豊橋市職労の小野田書記次長さんは「自治体労働者として賃下げ攻撃とともに住民生活を守る闘いに奮闘する」JMIUの大平書記長さんは「労働関係法の切り下げを許さない闘いをすすめよう」愛知国公の空さんは「マイナス人勧で裁判を全国136名・愛知で8名が奮闘中」と熱く語りました。集会決議採択を行い、羽根県本部委員長の「暮らしと職場を困難にしている大本に政治がある。要求前進のため、総選挙にも取り組もう」と団結がんばろうで集会を締めくくりました。集会後丸栄までデモ行進し繁華街の市民に力強くPRしました。

栄繁華街に響きわたる、1,500名のシュプレヒコール(上)　若宮広場をうめつくす(下)

職員の生活守る重点要求の実現を

第２次交渉11／10～14

給料表・９級制導入を

長久手町職労は10月23日当局との交渉で「９級制の導入と58歳７級ワタリを検討したい」との回答を引き出しました。当局は「給料表の中で特定の等級に団子状態になることを解決したい。近隣自治体を参考にしたもの」としています。組合は、７級ワタリにおける年齢の引き下げと行政職２表の改善をあわせておこなうよう要求し交渉をすすめることにしています。

国準拠の姿勢くずさず

学事労は10月27日、県教委と第２回目の交渉を行いました。県は「公務員給与は民間準拠が基本。第三者機関の勧告の『完全実施』が基本」という姿勢は変えず、住居手当（自宅）について「マイナス剰余格差をあわせると▲300円が適当」と示してきました。組合として11月５日の学事労独自の決起集会、県関係５組合の総決起集会など組合員の団結を強め、内外の大きな世論を背景に交渉を進めることにしています。

当局は組合員の声を聞け（豊橋市職労）

総務部長は真摯に交渉せよ

10月27日第１回目の交渉において豊橋市職労は事実上のゼロ回答をうけて不利益不遡及の原則を守るよう追求しました。当局は「４月に遡ることはあくまで調整。手当も４月に遡って支給した例も多い」と強弁。違法ではないかとの追求に「但し、心情的には…」と矛盾を感じていることを示しました。また、人勧をベースと言いながら、昨年からの継続協議である２㎞未満の通勤手当をゼロにする改悪案を提示し、組合は直ちに抗議しました。

参加者から「当局は組合員の声に耳を傾けるべき。一番当局にアピールしたいのは、５年連続の賃下げで本当に生活が厳しいということ。総務部長は3700人の職員の雇用主である市長の代理であり、本音を出し合いながら真摯に交渉に臨んでほしい」と訴え、交渉に対する当局の姿勢を改めるよう強く求めました。

次回11月６日の交渉に向け団体交渉の報告集会を一斉に行い、庁内世論を大きく盛り上げる行動を行うことを確認しています。

当局の基本姿勢を追及

豊川市職労と豊川市病職組は共同しての交渉を10月29日に行い、当局の基本姿勢を追及しました。

当局は、「不利益の遡及ではなく調整、人勧で生活が守られていると思う。総合的に勘案して決めていく。労使合意を得られるよう交渉していきたい」と回答しました。

小泉悪政ストップ

福祉水準守ろう
県民集会に800人

「保育士をもっと増やして」「いのちを育む給食を守ろう」。10月26日、名古屋市中区の白川公園で「福祉削るな！福祉を金もうけにするな！10・26愛知県民集会」に800人が参加し様々なプラカードやデコレーションでいっぱい。集会実行委員長の小川春水さんは「小泉構造改革のもとで福祉や保育が後退させられている。悪政をやめ現行の福祉水準を守ろう」と訴えました。集会後参加者は、買い物客でにぎわう栄までパレードし、道行く人たちに福祉の充実を訴えました。

長年の要求 やっと実現

春日井市職労

保育士が5名加配　乳児保育見直しで

乳児の年齢別保育を長年要求してきた春日井市で今年10月1日から0・1、2歳児のクラス別配置が実現しました（2部屋確保できる施設という条件つき）。5カ園に各1名加配保育士（臨時職員）が5名増員されました。これにより0・1歳児と2歳児の2つのクラスに分かれて保育することができ子どもたちも保育者も発達段階に対応してゆったりとした保育に専念できると喜んでいます。

佐藤純子保育部会長の話

これまで春日井市では0・1、2歳の混合保育が行われ、保育士の配置もプール計算（全体の子どもの数に対して必要な保育士の人数をあてる）で行われてきました。これでは本来の保育に必要な人数が切り捨てられることになり保育も年齢や発達に応じたものにならありませんでした。今年4月に児童課長が代わり、現場の実情を訴える中で「保育に必要な人員を確保する」との対応から実現しました。

「春日井市は他の自治体に比べ、遅れた部分がありますがこれでようやく乳児の保育を充実させていけることになります。引き続き年齢別保育を全園で実現できるよう求めていきたいです」とうれしそうに話しています。

できました

住民向けビラ

「構造改革」は地域に職場に「痛み」から「激痛」を与えようとしています。

年金大改悪、消費税の大増税に反対する世論をつくりながら、憲法9条が世界の誇りであること、地方自治をゆがめる制度が次々にはじまっていることを知らせる内容になっています。

組合員のみなさん、配布活動にご協力下さい。

労働組合のない職員向けビラ

愛知県内には組合のない自治体が多く、こうした職場に働く労働者から相談が相次いでいます。「病気休業をしていて復帰後の処遇が不安」「同じ町の職員同士の結婚で退職が強要された」など様々です。この秋、組合のない職場に配布するビラが出来ました。労働相談や自治体一般の組織化にご協力下さい。

職場の声

◆夏場の給食室は室温30℃今秋たけなわ室温20℃（鈴木明美・瀬戸市職労）◆涼しくなり、子どもたちも鼻水ダーダー…風邪をひかないように我々もうがい、手洗いをしています（小林幸知・春日井市職労）◆食欲の秋ですね。せっかくダイエットしたのに、たくさん食べてもとどおり（石井のぞみ・長久手町職労）◆「ツボの話」の中に「目が落ちたら活動を止めて、休息を心がけましょう」と書いてあっていいなあと思いました。現実はそううまくはいきません…（西川琴美・学事労）◆今、産婦人科は出産ラッシュ。毎日のように新しい命が誕生しています。忙しいけれど、病院で「おめでとうございます」といえる病棟は少ないのでがんばりがいがあります（中橋香那子・春日井市職労）◆毎日怒濤のごとく押し寄せる高齢者の生活相談。時には仏になり、時には鬼となりと毎日忙しい日々を送っています。ところで我が身の老後は大丈夫かなと気になるこの頃です（稲垣博美・豊橋市職労）◆健康診断の結果をうけ、職場では夏から健康ブームです。豆乳、黒酢につづき今はゴーヤ茶。ビタミンCが豊富だそうです（加納郁子・長久手町職労）◆しばらく前、子どもが自転車で転び、スリ傷、キリ傷とりどりで縫ったりもして大騒ぎしました。でも傷が治ると自転車の修理代の方が高いということがわかって（自分で直る自転車はないものか）と思って笑えました（内島真澄・春日井市職労）◆つい先日、〝おからドーナツ〟を作りました。ヘルシーでとてもおいしかったです。グラニュー糖をまぶしました（鈴木貴子・瀬戸市職労）

今年も実施します　自治労連共済個人還元

自治労連共済の個人共済ならびに火災共済にご加入いただきました組合員の皆様に心から感謝申し上げます。おかげさまで自治労連共済は2002年度決算（02年7月～03年5月）で共済剰余金を総額4億6千5百万円を超える個人還元原資が整いました。還元対象となるのは生命共済特約型、医療共済基本型・特約型、交通災害共済、火災共済とほぼ全種目に対しての還元実施となります。加入者の皆様への還元金のお渡しは10月下旬から始まっていることと思います。還元例は下図の通りです。今後とも自治労連共済を前進させ加入者を広げて下さるようお願いいたします。

個人共済還元例A	
加入内容（大人）	生命特約250口、医療基本16口・特約16口、交通災害５口の場合
還元総額　２０，６５０円	
個人共済還元例B	
加入内容（大人）	生命特約80口、医療基本６口・特約６口、交通災害２口の場合
還元総額　６，９２０円	
火災還元例	
加入内容（木造）	建物240口、家財150口
還元総額　２，６１０円	

もっと良い機関紙をつくりたい!!

第8回あいち機関紙・宣伝学校

10月18日（土）19日（日）の2日間、愛労連と自治労連がとりくむ「第8回あいち機関紙・宣伝学校」が開催されました。参加者は両日あわせて80名を超え、自治労連からも9単組・39名が参加しました。

一日目の桜井輝治さん（日本機関紙協会常任理事）の講演で「機関紙の力を見直し、社会的役割の発揮を」と話され、機関紙のもつ力が大きいことを確信できました。2日目の実技講座「ステップアップ講座」に参加した豊橋市職労の三輪まりさんは「年金者組合の方が『楽しんで作ってる』という発言にやる気がでました。職場に帰ってもっと勉強したいです。」豊川市職労の宮本季余美さんは、「機関紙の大切さや楽しさを感じました。班に分かれてのニュース作りも楽しかったです。」と語っていました。

取材から編集までみんな真剣

2004年新年号 投稿募集のお知らせ

「あいちの仲間」編集部では、2004年新年号で次の読者参加企画を予定しています。掲載された方には図書券をプレゼント。どしどしご応募ください。

○私の2004年　チャレンジしたいこと！
○まんが、短歌、絵てがみ、などテーマは自由です。

（字　数）　200字まで
（〆　切）　12月10日必着
（送り先）　１面題字下参照。氏名、組合名住所（連絡先 Tel）を明記してください。